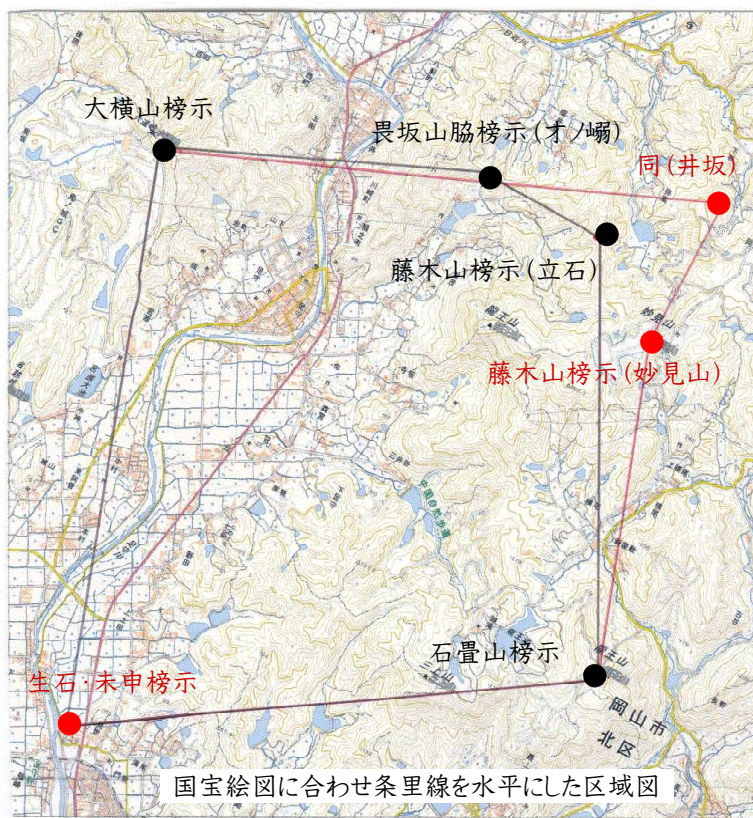


## ④ 大井御庄堺に置かれた脇榜示の意味

平成29年3月20日、国宝足守庄絵図の中の大井庄堺の畏坂山「脇榜示」、藤木山榜示についてお話ししましたが、その位置の適否について疑問が生じたので再考を加える次第です。



まず、畏坂山「脇榜示」ですが、公式には、大井筒井坂の字オノ囃の経塚と推定されています。当昔小話では、日近村杉谷字茂津尻にある「イ坂近くの石」としたところですが、これについては、昨年5月、杉谷字井坂の尾根上に榜示らしき石を発見し、これを畏坂山脇榜示として推薦する次第です。つまり、この石と六道峠（阿宗郷堺大横山榜示）を結びますと、ちょうど経塚の上を通ります。考えてみると、オノ囃は、元々足守、大井の東西の直線的境界線の上であり、それ故に、榜示を置く必要性には乏しいと考えられるのです。

そこで、脇榜示（脇とは、かたわら、中心から外れた場所の意味）として、若干外れ気味の杉谷字井坂へ置くことで、足守庄域分である妙見山寄りの部分をカバーしたのではないかと考えることができます。

次に、大井御庄堺藤木山榜示ですが、公式には、付近に藤木池、あるいは藤木という小字があるということから字立石にある、名前どおりの形状をした「立石」が榜示と推定されています。昔小話でもこれを支持したところですが、

しかし、「付近に…ある」という消極的な論法よりも直接的な理由から、藤木山榜示は、実は妙見山（弥高山）にあったのではないかと考え、その辺りをご説明し榜示候補として推薦する次第です。

即ち、妙見山（弥高山）の山頂は足守庄と大井庄の境界で、土地台帳を見ますと、両庄ともに字藤木の地名が存在します。まさに正真正銘の藤木山です。その上、備前と備中の国堺で、榜示を置く場所に適しています。



そこで、脇榜示（脇とは、か



加えて、現行の「立石」では、前述のとおり石畳山榜示を結ぶ線の東に足守庄分を残すことになり、正確さでも妙見山に劣ると考えられます。

次に、未申榜示と推定されている、生石御庄堺の提田一条六丁ですが、これについては、近くの生石神社の境内に納められている「神石」がそれではないかと考えるところです。

果たして、生石神社の由緒書は次のとおりです。

「祭神 応神天皇 … 古代吉備と深く関わりを持つている。今から1200～1300年前の昔からこの地区の氏神様であった。奈良時代の神名帳にも残されている。その後、この地域は神護寺、仁和寺の荘園として寄進されている。また、生石の名の元と言われる大きな柱のような石が生石明神として祀られている。性の石とも言われる。」

この文中最後の部分「柱のような性の石」ですが、文字通りに受け止めればそのような解釈しか出来ないのですが、つまり、縁結び、夫婦円満、子孫繁栄とか？

しかしこれは、いつぞやお話し致しました大井神社境内に鎮座する注連神社の「オシメ様」と同じ趣旨、つまり境目に置かれた聖なる石ではないでしょうか。ここは、足守庄と生石庄の境目です。今は、境内脇の石倉へ押し込まれていますが、元をたどれば神社の御神体であった可能性も考えられます。



### (妙見山の牛市)

妙見の名は、江戸時代に弥高の太田氏が、神戸近くの能瀬の妙見を勧請したことによるものです。また弥高山とは、その「大いに高い」という形容から付けられた山名です。

山頂には、妙見山覚乗寺本堂が「妙見山」という扁額付きの鳥居の真向こうに見え、神仏混合も極まった風です。この寺の南隣りに、地元の人が大山様と言う石造の小祠があります。ここで行われた牛市の神様となるお宮です。木札に安政4年4月吉日、大工日近安藤長助久條、遷宮尊師仏性山〇〇とあります。日近の善修寺の僧でしょう。この宮は、



明治28年4月吉日に、今の石造小祠に生まれ変わった様子が、台座の世話人連名碑からうかがえます。陰暦3月16日、7月26日の祭日に牛市が立ち、300頭が列をなして山を登りました。十二本木の牛市は、品評会的性格が強いものでしたが、妙見ではセリも行われ、雨が降れば「妙見様の牛糞流し」と言われるほど賑やかだったそうです。牛が連れて来られた地域は、岡山市合併前の足守町全域、高松町の一部、備前は、津高、一宮ですが、地域的には十二本木の方が広がったようです。